

第2学年 道徳科学習指導案

1 主 題 名 友だちとたすけ合う B 友情・信頼

2 主題設定の理由

(1) 価値観

友達は、家族以外で特に深い関わりのある存在である。友達関係は、遊びや学習など多くの場面で影響し合って構築されるものである。学級での生活をともにしながら一緒に勉強したり、仲良く遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達の良さをより強く感じるようになる。しかし、この年代の児童は自己中心性がまだ強く、友達と仲良く遊びたいと思う反面、相手のことをあまり考えないような行動をとってしまうこともある。そこで、友達と一緒に、仲良く活動することの良さや楽しさ、助け合うことの大切さを実感させることで、相手の気持ちになって考え、友達と仲良くし、助け合おうとする心情を育てたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、明るく素直に生き生きと活動する児童が多く、係や当番などの活動に協力して取り組むことができる。また、困っている友達がいると進んで手助けすることもできる。しかし、自分の思いを通そうとして口げんかになったり、強い口調で相手を咎めたり、自分の思いを伝えられずに我慢したりする姿も見られる。そこで、本教材を通して、自分本位ではなく友達の気持ちに寄り添いながら、友達と一緒に活動することの良さや大切さを実感させる。自分本位であることが時に相手を傷付けてしまう場合もあることに気付かせながら、友達だからできることを考え、友達と仲良くし、助け合おうとする態度を育てていきたい。

(3) 教材観

本教材は、ミツバチの子どもたちが飛ぶ速さを比べることになり、その競争中にゆっきが困っているやっちを助け、優しく励ましてゴールするという話である。勝ちたいけれど友達を置いていけないゆっきの迷いや、傲慢だったやっちがゆっきの優しさに触れ、友達のすばらしさに気付くようすに視点をあてることで、この時期の自己中心的な発達段階の児童が友達と助け合い、仲良くすることの気持ち良さや喜びについて考えるのに適した教材である。

3 本時のねらい

- ゆっきとやっちの気持ちや行動について考えることを通して、友達がいることの良さに気づき、友達と仲良くし、助け合おうとする実践意欲と態度を育てる。

4 準備・教材

- 教材名「ゆっきとやっち」 出典「小学 どうとく」（教育出版）
- 教師……板書カード、教科書の場面絵、ワークシート、ゆっきとやっちの顔のペープサート

5 関 連

道徳 「みほちゃんと、となりのせきのますだくん」（友達の気持ちになって）

6 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
方向付け	1 かけっこや競争をするときにどんな気持ちになるか考える。 ・ 1 番になりたい。 ・ 負けるのはいやだ。 ・ 勝ちたい。 ・ 楽しそう。わくわくする。	3	○ 児童の素直な気持ちを共感的に受け止め本時の方向付けをする。 ○ 友達と競争になった場面を想起させ、そのときの素直な気持ちを発表させる。
価値の追求・把握	2 教材「ゆっきとやっち」の前半（やっちのお腹が痛くなる場面まで）を聞き、話し合う。		○ 教材は教師が範読し、児童の集中力を高める。 ○ 電子黒板に場面絵と台詞を写しながら範読する。 ○ 2 場面に分け、前半部分を読む。 ○ 場面絵を見せ、登場人物を確認しながら、状況を把握させる。

価値の追求	<p>やっちに「いくらがんばったってぼくの方が速いさ」と言われたゆっきは、どんな気持ちになったのでしょうか。</p>	
	<p>(1) 個人で考え、ワークシートに意見を書く。 ・嫌な気持ち。 ・悔しい。 ・ひどいことを言うなあ。 (2) 役割演技をしながら全体で発表する。 やっち:いくらがんばったってぼくの方が速いさ。 ゆっき:ひどいなあ。ぼくだって負けないようにがんばるもん。</p>	<p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを配付する。 ○ワークシートの吹き出しにゆっきの気持ちや思いを書かせる。 ○やっちの自慢そうな表情に注目させ、ゆっきの不快な思いに共感させる。 ○やっち役は教師が行う。 ○やっちに自慢されている場面の役割演技を行うことで、ゆっきの心情を深く考えることができるようにする。
	<p>ゆっきは、どんなことを迷っているのでしょうか。</p>	
把握	<p>・先に行ったら、やっちに勝てるぞ。 ・チャンス！さっき、嫌な気持ちにさせられたから、先に行ってしまおう。 ・やっちがかわいそう。どうしよう。 ・とても苦しそうな顔だから、助けなくちゃ。</p>	<p>20</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が勝ちたい気持ちと友達を助きたい気持ちなど迷う二つの気持ちを考えさせる。 ○自分がゆっきだったらどのように迷うのか、また、その理由について考えさせる。 ○ゆっきの迷う気持ちを分かりやすくするために、意見を区別して板書する。
	<p>3 教材の後半を聞き、話し合う。</p>	<p>○後半部分を読む。</p>
価値の自覚	<p>二人はどんなことを話しながら、並んで飛んでいったのでしょうか。</p>	
	<p>(1) 個人で考え、ワークシートに意見を書く。 (2) 役割演技をしながら隣同士で意見を伝え合う。 (3) 役割演技をしながら全体で発表する。 やっち:ありがとう。ゆっきは優しいね。さっきは、ごめんよ。 ゆっき:一緒にゴールまでがんばろう。これからも仲良くしようね。</p>	<p>35</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを配付する。 ○ゆっきとやっちが互いの心の中でどんな言葉をかけているかを想像して、ワークシートに書かせる。 ○全体で発表する前に隣同士で伝える場面を設定し、自分の意見に自信をもたせる。 ○ゆっきとやっちの顔のペープサートを使いながら役割演技をさせる。 ○必要に応じて意図的指名を行う。 <p>評 ゆっきとやっちの気持ちを考えることで、友達と助け合う大切さに気付いている。 (ワークシート、発表)</p>
まとめ	<p>4 自分の生活を振り返り、自己をみつめる。</p>	
	<p>友達を助けたり、友達に助けられたりしたことはありますか。</p>	
まとめ	<p>・こけたときに大丈夫？と声をかけてくれた。 ・友達の帽子が見つからないときに、一緒に探してあげた。</p>	<p>40</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験とともに、そのときの気持ちについても触れるようにする。 ○学校生活だけでなく、家庭や地域などの場面を例示して、体験を思い起こさせる。
	<p>5 本時のまとめをする。 ・友達のことを考えて行動することが大切だと思った。 ・これからは、困っている友達がいたら声をかけたい。</p>	<p>45</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本教材での学びをワークシートに書き、発表させる。 ○友達と仲良くするために、どんな気持ちを大切にしていきたいかまとめさせる。 <p>評 友達の気持ちを考えて、仲良く助け合うことの大切さに気付いている。 (発表、ワークシート)</p>

7 本時の評価

- 友達の大切さに気づき、友達の気持ちを考えて話したり、行動したりしようとする意識を高めることができる。
(発表、ワークシート)

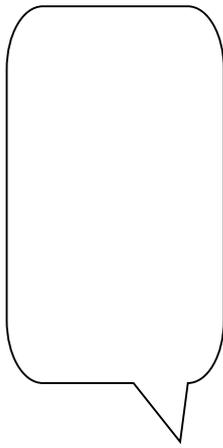
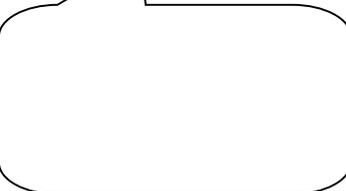
8 備 考

(1) 指導の力点

〈考え、議論する道徳の授業づくり〉

- ・ やっちに自慢されている場面の役割演技を行うことで、ゆっきの心情を深く考えさせ、ゆっきの心の迷いの場面を子どもたち一人ひとりが十分に共感することができるようにしたい。
- ・ 場面絵の様子や登場人物の表情に着目させたり、役割演技を取り入れたりすることで、登場人物の思いや気持ちを考えやすくさせる。

(2) 板書計画

	や ち ち			ゆ っ き と や ち ち
	ゆ っ き	どうしよう まよってしまいました	「いくらがんばったってぼくのほうがはやいな」 ゆっきは…	だれがはやいかきようそう
				

9 指導と評価